仙台市音楽ホール検討懇話会

報 告 書

2019（平成 31）年３月

報告にあたって

この報告書は、2017 年 11 月に設置された「仙台市音楽ホール検討懇話会（以下、懇話会という）」の検討結果を取りまとめたものです。約１年半に渡り、懇話会を６回、専門委員を招請した立地検討専門部会を３回開催してきました。

懇話会は意思決定の場ではなく、仙台市が今後進める政策方針・計画を決定していくための考え方や視点、素材となる情報などを提供する場として検討をすすめてきました。

多岐にわたる課題について検討するなかには、多様な考え方があり、必ずしも一つの方向に絞られない課題も多く、今後の政策的な検討に委ねられる部分が多々あります。しかし、懇話会委員、専門委員を含めて、共通した認識は、施設が整備された 10 年、20 年後において、「この施設があってよかった」と市民が思い、支えてくれる施設、都市にとって「新しい価値を創出し、仙台の価値を高めた」といっていだだける施設であるべきだという点です。その根底には、文化芸術はこれからの社会にとって重要なソフトインフラ、社会を維持・活性化していく基盤となるという基本的な考え方があります。

日本社会は今後ますます、少子高齢・人口減少に向かって行きます。産業構造も劇的に変化してきました。こうした社会環境の変化により、これまで経験したことのない社会的な課題に立ち向かっていかなければなりません。実演芸術を含む文化芸術は、その課題の解決に立ち向かう力を市民とともに創りだすことができます。音楽ホールはそのような取組みの推進拠点とも位置付けられます。それは東日本大震災からの復興を経験してきた市民の皆さんの共感と支持を得られるのではないかと思います。

仙台市音楽ホールは、単なるホールという建築物＝ハコではなく、これからの時代に向けて、文化芸術の持つ可能性を広げ、市民とともに幅広い活動を展開し次代を拓いていく広場となるものです。それは仙台のみならず、東北、さらには日本、世界の人々と繋がり、新しい社会的な価値、文化芸術と地域社会の関係を創っていく拠点ともなるでしょう。

今後、市としては基本構想の策定などに進むことになりますが、常に最新の知恵や知見を活かしながら、市民の理解と合意を得て、整備が着実に推進されるとともに、施設が目指す活動や必要な人材育成などに、できるだけ早期に取組まれていくことを期待します。

仙台市音楽ホール検討懇話会　会長

本 杉 省 三

目　　　次

第１章　検討の基本的考え方

Ⅰ　懇話会の目的、位置づけ
１．仙台市音楽ホール検討懇話会の目的と位置づけ　3
２．報告書の考え方と役割　3

Ⅱ　仙台市音楽ホール検討の前提課題
１．これまでの経緯　4
２．仙台市におけるホール施設の現状と課題　9
３．国の文化芸術政策の動向、ホール施設の変化　１６
４．都市仙台の役割と動向　１８
５．音楽ホールの必要性　２０

第２章　施設の考え方

Ⅰ　基本的方向性
１．基本的考え方　２３
２．理念、目的　２４
３．機能構成　２６

Ⅱ　施設の考え方
１．施設像　２７
２．主要施設の考え方　３０
３．施設の規模　３６

Ⅲ　事業運営の考え方
１．事業運営の考え方　３７
２．事業運営の方向性　３９
３．事業運営の課題　４０

Ⅳ　管理運営の考え方
１．管理運営の考え方　４１
２．管理運営組織の考え方　４２
３．管理運営の課題　４３

第３章　施設整備の考え方

Ⅰ　立地と事業手法について
１．立地検討と懇話会の役割　４５
２．検討の視点と検討結果の報告　４６

Ⅱ　検討の課題
１．検討候補地　４７
２．事業手法　５４

Ⅲ　検討の結果
　１．候補地検討の結果　５８
　２．事業手法について　６５

第４章　今後に向けて

　１．市に期待すること　６７
　２．今後に向けて　６８

参考資料

　１．仙台音楽ホール検討懇話会　７３
　　　設置要綱
　　　委員名簿
　　　開催経緯
　２．立地検討専門部会　７６
　　　委員名簿
　　　開催経緯